



# 平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月4日

上場会社名 井村屋グループ株式会社  
コード番号 2209 URL <http://www.imuraya-group.com/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大西 安樹

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長部門統括 (氏名) 中島 伸子

TEL 059-234-2146

四半期報告書提出予定日 平成29年8月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	9,077	6.3	8		33		2	
29年3月期第1四半期	8,538	10.9	61		99		85	

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 37百万円 ( %) 29年3月期第1四半期 164百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	0.18	
29年3月期第1四半期	7.04	

平成28年10月1日を効力発生日として、2株を1株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	28,292	11,099	39.1
29年3月期	26,175	11,324	43.2

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 11,073百万円 29年3月期 11,298百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		22.00	22.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00		22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	20,800	4.1	750	1.4	720	4.2	510	14.9	42.73
通期	44,000	4.8	1,400	13.6	1,450	11.0	1,000	39.5	83.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	12,822,200 株	29年3月期	12,822,200 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	886,464 株	29年3月期	886,212 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	11,935,889 株	29年3月期1Q	12,112,590 株

(注)平成28年10月1日を効力発生日として、2株を1株とする株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いておりますが、海外経済の不確実な情勢により、先行き不透明な状況で推移しました。

菓子・食品業界におきましても、消費動向は予断が許されない状況の中、企業間の競争は激化し、厳しい経営環境が続いてきました。

このような状況のもと、今年度は中期3カ年計画「One imuraya 2017」の最終年度であり、創業120年、会社設立70周年、持株会社制移行7年目となるエポックイヤーを迎えました。

当社グループは周年のテーマを“挑む！(Challenge)”として、「変わる(Change)」「創る(Create)」「繋げる(Continue)」の3つのCを実践するとともに、経営実行項目である「リスクマネジメントの実践による新たなBCPの確立」と「生産性の向上」に取り組み、この重要な年度の経営目標の達成と着実な成長に向け事業活動を展開しました。

また、地元三重県伊勢市で開催されたお菓子の祭典、第27回全国菓子大博覧会・三重「お伊勢さん菓子博2017」において、開催期間中(4月21日～5月14日)は企業パビリオン「ようこそ!!あずき王国へ」とともに「aiai Café(アイアイカフェ)」「物販ブース」を出店し、あずきの啓蒙やオリジナル商品の発売などを行いました。出店に加え、菓子博で排出されるCO<sub>2</sub>約3,700tに対し当社がバイオマスボイラ導入によりJ-クレジット化した排出削減量のうち3,655tをカーボン・オフセットにて提供しました。この菓子博をCO<sub>2</sub>排出ゼロのイベントにする協力に対し、三重県知事から感謝状をいただくなど、グループ全体で「お伊勢さん菓子博2017」を応援いたしました。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、流通事業においては、「Next New」をテーマに新商品の開発、導入に取り組み、全カテゴリーで売上が増加しました。2017年4月1日付で合併し、新たにスタートした井村屋フーズ株式会社のBtoB事業は順調に立ち上がり、売上も増加しました。米国のIMURAYA USA, INC.のアイス事業や中国の調味料事業およびカステラ事業における海外事業も全体として計画に沿って推移しました。その結果、連結売上高は、前年同期比5億39百万円(6.3%)増の90億77百万円となりました。

コスト面では、冷凍倉庫「アイアイタワー」の設備投資効果により保管料が削減されました。また、バイオマスボイラによる動燃費の低減化が継続された事やグループ全体で取り組んでいる生産性向上活動によりコスト低減が図られました。

その結果、営業損失は8百万円(前年同期比52百万円の改善)、経常利益は33百万円(前年同期比1億33百万円の改善)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は2百万円(前年同期比87百万円の改善)となりました。

当社グループの第1四半期業績は商品構成上、黒字化が厳しい期間でありましたが、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益においては、初の黒字化を達成いたしました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

#### ① 流通事業

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

(菓子、食品、デリーチルド)

菓子カテゴリーについては、新商品の「煮小豆ようかん」や「和菓子屋の黒糖わらびもち」「和菓子屋の柚子くずもち」の導入が順調に進み、焼き菓子では、「和菓子屋のどら焼き」シリーズが着実に売上を伸ばしました。中国のカステラ事業では井村屋(北京)食品有限公司(I B F)において中国国内のOEM商品受託など新規ルート開拓が進みました。その結果、菓子カテゴリーの売上高は、前年同期比72百万円(4.9%)増の15億71百万円となりました。

食品カテゴリーについては、「ゆであずき」や「お赤飯の素」などの主力商品に加え、健康・機能性をテーマとした商品「煮小豆」を発売しました。夏物商品の「氷みつ」では新商品の「カフェフラッペ」シリーズを投入し、順調に推移しました。また、井村屋フーズ株式会社の加工食品事業ではOEM受託商品の売上が増加しました。その結果、食品カテゴリーの売上高は前年同期比1億21百万円(9.9%)増の13億40百万円となりました。

デリーチルドカテゴリーでは、「豆腐類」で「美し豆腐」やその他の業務用商品が堅調に推移しました。その結果、デリーチルドカテゴリーの売上高は、前年同期比34百万円(16.7%)増の2億41百万円となりました。

## (冷菓、点心・デリ)

冷菓カテゴリーでは、主力商品「あずきバー」シリーズの売上本数が前期比101.5%の77百万本と増加し、順調な立ち上がりとなりました。「やわもちアイス」シリーズでは、好評をいただいている「やわもちアイス わらびもち」が引き続き順調に推移し、新商品の「クリームチーズアイス ブルーベリー」も売上増加に貢献しました。米国でアイス事業を展開しているIMURAYA USA, INC.においても、井村屋ブランド商品「もちココナッツアイス」の大手量販店への導入が計画に沿って進みました。その結果、冷菓カテゴリーの売上高は前年同期比61百万円(1.7%)増の37億43百万円となり、最需要期に向け期待がもてる状況となっております。

「肉まん・あんまん」などの「点心・デリ」カテゴリーではコンビニエンスストアへの導入店舗数が増加しました。「点心・デリ」カテゴリーの売上高は前年同期比1億19百万円(18.8%)増の7億56百万円となり、本格的なシーズンに向け期待がもてる状況となっております。また、計画に沿って建設を進めてきました「点心・デリ工場」が予定通り7月1日より稼動を開始しました。今後の成長戦略に弾みがつく事が期待されます。

## (スイーツ)

スイーツカテゴリーでは、「Anna Miller's (アンナミラーズ) 高輪店」が引き続き堅調に推移しました。催事販売の効果により認知度が高まっております「JOUVAUD (ジュヴォー)」では、昨年6月にオープンした『La maison JOUVAUD』(ラ・メゾン・ジュヴォー) KITTE名古屋店で特長あるメレンゲ菓子の「生ロカイユ」がテイクアウト商品として根強い人気を集めており、販売も好調に推移しました。また、「お伊勢さん菓子博2017」へ出店した「aiiai Café (アイアイカフェ)」も好評をいただき、更にブランドの認知度向上が図られました。その結果、スイーツカテゴリーの売上高は前年同期比70百万円(70.7%)増の1億70百万円となりました。

以上の結果、流通事業の売上高は、前年同期比4億80百万円(6.5%)増の78億24百万円となり、セグメント利益は前年同期より47百万円増加し、2億78百万円となりました。

## ② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、ODM (Original Design Manufacturing) 市場での新規顧客獲得やお客ニーズに対応した商品提案に取り組んだ結果、売上高が増加しました。また、継続した生産性向上活動により労務費とエネルギーコストの低減が図られました。中国での調味料事業では、北京の北京京日井村屋食品有限公司(J I F)が中国国内で積極的な販路拡大に取り組むとともに、大連の井村屋(大連)食品有限公司(I D F)では製造原価の低減が図られました。

その結果、調味料事業の売上高は、前年同期比64百万円(5.7%)増の11億98百万円となり、セグメント利益は前年同期より23百万円増加し、66百万円となりました。

## ③ その他の事業

イムラ株式会社が行っているリース代理業は堅調に推移しました。また、井村屋商品のアウトレット販売を行っております「MOTTAINAI屋」はお客様へのサービス向上に取り組み、地域住民の皆様から引き続き好評をいただきました。本社所在地である三重県津市の近鉄津駅構内に出店している「imuraya Sweets Shop irodori」では特色のあるスイーツ商品を中心に販売し、人気を得ております。

その結果、その他の事業の売上高は54百万円となり、セグメント利益は10百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は282億92百万円となり、前連結会計年度末に比べ21億17百万円の増加となりました。流動資産は、夏物商品の最盛期に対する供給体制を確実にするため、製品在庫の増加、及び売上増加に伴う売掛金の増加等により、11億65百万円増の111億24百万円となりました。固定資産は、点心・デリ工場の新設に伴う建設仮勘定の計上等により、9億53百万円増の171億49百万円となりました。

負債は171億93百万円となり、前連結会計年度末に比べ23億42百万円の増加となりました。流動負債は、計画的な設備投資及び夏物商品の生産に連動した短期借入金の増加等により、24億42百万円増の149億29百万円となりました。固定負債は、長期借入金及びリース債務の減少等により、99百万円減の22億63百万円となりました。

純資産は配当金の支払等により、2億25百万円減の110億99百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末43.2%から39.1%へ減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期に向けて、夏場の主力商品である「あずきバー」の売上増加など、順調に推移する見込みであり、また、冬場の加温商品の導入計画も順調に進捗しておりますので、平成29年5月11日付の「平成29年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、景気の停滞や世界的な経済状況の変動、原材料の高騰などの環境変化によって業績予想の修正が必要であると判断される場合は、速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	799,160	893,957
受取手形及び売掛金	5,146,528	5,534,360
商品及び製品	2,420,516	2,977,754
仕掛品	263,964	287,880
原材料及び貯蔵品	557,367	662,831
その他	772,510	768,840
貸倒引当金	△1,207	△1,174
流動資産合計	9,958,841	11,124,451
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,394,919	13,727,787
減価償却累計額	△8,716,023	△8,069,405
建物及び構築物(純額)	5,678,895	5,658,381
土地	4,283,842	4,283,842
その他	16,325,883	17,423,411
減価償却累計額	△12,451,493	△12,665,263
その他(純額)	3,874,390	4,758,147
有形固定資産合計	13,837,128	14,700,372
無形固定資産		
その他	124,543	129,316
無形固定資産合計	124,543	129,316
投資その他の資産		
投資有価証券	1,788,325	1,870,704
退職給付に係る資産	106,881	111,953
その他	363,741	362,014
貸倒引当金	△25,061	△25,061
投資その他の資産合計	2,233,887	2,319,611
固定資産合計	16,195,559	17,149,300
繰延資産	20,774	18,574
資産合計	26,175,175	28,292,326

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,574,082	2,460,161
電子記録債務	1,922,405	1,928,738
短期借入金	3,350,000	6,100,000
1年内返済予定の長期借入金	300,000	275,037
未払金	2,590,126	2,632,990
賞与引当金	551,236	334,520
役員賞与引当金	25,000	-
その他	1,174,170	1,197,854
流動負債合計	12,487,022	14,929,301
固定負債		
長期借入金	300,444	250,518
引当金	20,700	17,829
退職給付に係る負債	167,667	149,611
資産除去債務	21,490	21,490
その他	1,853,120	1,824,312
固定負債合計	2,363,422	2,263,761
負債合計	14,850,444	17,193,063
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,253,900	2,253,900
資本剰余金	2,240,523	2,240,523
利益剰余金	5,427,045	5,166,543
自己株式	△920,051	△920,598
株主資本合計	9,001,417	8,740,368
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	235,049	287,409
土地再評価差額金	1,969,729	1,969,729
為替換算調整勘定	△4,459	△15,498
退職給付に係る調整累計額	96,882	91,892
その他の包括利益累計額合計	2,297,201	2,333,534
非支配株主持分	26,111	25,359
純資産合計	11,324,731	11,099,262
負債純資産合計	26,175,175	28,292,326



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	8,538,347	9,077,478
売上原価	5,770,318	6,152,334
売上総利益	2,768,028	2,925,143
販売費及び一般管理費	2,829,552	2,933,946
営業損失(△)	△61,523	△8,802
営業外収益		
受取配当金	28,320	28,007
受取家賃	10,443	10,537
為替差益	-	4,276
その他	13,294	13,320
営業外収益合計	52,057	56,142
営業外費用		
支払利息	9,485	11,244
為替差損	80,079	-
その他	621	2,379
営業外費用合計	90,186	13,624
経常利益又は経常損失(△)	△99,652	33,716
特別利益		
投資有価証券売却益	95	-
補助金収入	8,525	4,870
事業譲渡益	-	6,759
特別利益合計	8,620	11,629
特別損失		
固定資産除却損	6,830	11,329
その他	-	1,110
特別損失合計	6,830	12,439
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△97,862	32,905
法人税、住民税及び事業税	39,752	19,959
法人税等調整額	△52,087	10,709
法人税等合計	△12,334	30,668
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△85,527	2,237
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△225	147
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△85,302	2,089

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△85,527	2,237
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△86,533	52,360
為替換算調整勘定	6,477	△11,937
退職給付に係る調整額	1,220	△4,989
その他の包括利益合計	△78,835	35,433
四半期包括利益	△164,363	37,670
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△162,349	38,422
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,013	△751

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,343,914	1,133,833	8,477,748	60,598	8,538,347
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18,067	2,052	20,120	173	20,293
計	7,361,982	1,135,886	8,497,868	60,771	8,558,640
セグメント利益	231,083	42,801	273,884	11,878	285,763

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸管理業及び損害保険代理業、リース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	273,884
「その他」の区分の利益	11,878
全社費用(注)	△347,287
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△61,523

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,824,814	1,198,179	9,022,993	54,485	9,077,478
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18,349	11,064	29,413	256	29,670
計	7,843,163	1,209,243	9,052,406	54,742	9,107,149
セグメント利益	278,629	66,391	345,020	10,936	355,956

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸管理業及びリース代理業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	345,020
「その他」の区分の利益	10,936
全社費用(注)	△364,758
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△8,802

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。